みんぱく Information

特別展
「韓日食博――わかちあい・おもてなしのかたち」

五感で味わう韓国と日本の「食」文化。体感できる新しい「食」の展覧会です。両国の食文化がユネスコ無形文化遺産に登録されるなど「食」に関する文化的な関心が高まるなか、日韓国交正常化50周年を記念して、韓国国立民俗博物館と共同で開催します。

会期　8月27日(木)～11月10日(火)
会場　特別展示館

企画展
「岩に刻まれた古代美術――アムール河の少数民族の聖地シカチ・アリャン」

極東ロシアに暮らす先住民族ナナイの村落であるシカチ・アリャン村の岩面画について拓本と写真を使って世界で初めて一斉に紹介します。

会期　7月21日(火)まで

躍動する南アジア――春から秋のみんぱくフォーラム2015

新しくなった南アジア展示にあわせて、その躍動感あふれる姿を、さまざまな関連イベントを通じて紹介します。

■関連イベント

◆夏休みこどもワークショップ
「キラキラ　カラフル　インド布――フィールドワークに挑戦！」

日時　8月1日(土) 10時30分～16時（集合10時20分）
場所　ナビひろば、本館展示場
※要事前申込、定員12名、参加費500円、申込は定員に達し次第受付終了

「はじめの一歩　やってみようミラー刺繍」

日時　6月～8月の毎週木曜・土曜 13時30分～16時30分（16時まで受付）
場所　本館エントランスホール
プログラム
①ミラー刺繍の仕組み（参加無料）
②スパンコールをつけてみよう（参加費50円）
※申込不要、小学生から大人まで（小学3年生以下は保護者同伴のこと）刺繍初心者向け

◆みんぱく映画会
インド映画特集

現代インドを表現する各言語によるインド映画を、インド研究者による解説付きで4回にわたって上映いたします。

7月20日(月・祝)
「ファンドリー」
7月25日(土)
「カーンチワラム――サリーを織る人」
8月2日(日)
「Mr.&Mrs.アイヤル」
8月8日(土)
「DDLJ――勇者は花嫁を奪う」
各回13時30分～16時30分（開場13時）
ただし、8月8日(土)のみ13時～16時30分（開場12時30分）
会場　本館講堂（定員450名）
※申込不要、要展示観覧券、先着順（整理券は配付いたしませんので、ご注意ください。）
※各日11時30分より南アジア展示場にてミニレクチャーあり、8月8日(土)のみ11時から。

◆展示場クイズ
「みんぱQ」南アジア編

日時　7月23日(木)～8月25日(火)
会場　本館南アジア展示場

みんぱくミュージアムパートナーズ「点字体験ワークショップ」

日時　7月11日(土) 12時～15時30分
会場　本館エントランスホール
※参加無料、申込不要

台湾光点計画講座「台湾客家文化を学ぶ」

日時　7月11日(土) 13時～16時45分
会場　本館第5セミナー室（定員90名）
※申込不要、参加無料、先着順
お問い合わせ先
河合洋尚研究室
kawaihiro@idc.minpaku.ac.jp

連続講座「みんぱく×ナレッジキャピタル――世界の『民芸』――」

好評につき大阪・梅田のナレッジキャピタルで連続講座の第2弾を開催！

時間　19時～20時30分
会場　グランフロント大阪北館1階 ナレッジキャピタル「カフェラボ」
※要事前申込、参加費500円（1ドリンク付き）、定員各回50名
主催　国立民族学博物館 一般社団法人 ナレッジキャピタル
7月1日(水)
講師　印東道子（本館 教授）
メイド　イン　オセアニア――素材を活かした機能美
7月8日(水)
講師　鈴木七美（本館 教授）
アメリカン・キルトの世界――キルトのある生活、キルティングする人びと
お申込み・お問い合わせ先
一般財団法人ナレッジキャピタル
06・6372・6530

カレッジシアター「地球探究紀行」

みんぱくの研究者が驚きと感動をお届けします。世界の文化の〝奥深く〟へご一緒にどうぞ。

時間　13時～14時30分
会場　あべのハルカス近鉄本店「スペース9」
※要事前申込（参加状況により当日受付あり）、参加費各回1000円
共催　産経新聞社、近鉄文化サロン、スペース9
特別協力　国立民族学博物館、千里文化財団

7月8日(水)
チョコレートの故郷――メキシコと中央アメリカ
講師　鈴木紀（本館 准教授）
7月22日(水)
武器をアートに――アフリカ・モザンビークにおける平和構築
講師　吉田憲司（本館 教授）
お申込み・お問い合わせ先
ウェーブ産経カレッジシアター係
06・6633・9087

●夏休み観覧無料キャンペーン

夏の観覧無料キャンペーンを8月1日(土)から8月25日(火)まで実施します。対象は高校生以下と65歳以上の方です。

●ネパール大地震の情報ポータルサイト

人間文化研究機構の現代インド地域研究国立民族学博物館拠点では、4月25日に発生したネパール大地震関連の情報を集積したポータルサイトを立ち上げました。
URL　http://www.minpaku.ac.jp/nihu/minpaku/nepal_earthquake2015_jhtml

※各イベントについてくわしくはみんぱくホームページをご覧ください。
※電話でのお問い合わせの受付時間は、9時～17時（土日祝を除く）です。

巡回展「イメージのカ――国立民族学博物館コレクションにさぐる」

会期　8月23日(日)まで
休館日　毎週月曜日（ただし、月曜日が祝日の場合はその翌日）
会場　郡山市立美術館（福島県）
主催　郡山市立美術館、国立民族学博物館、千里文化財団

みんぱくホームページ　http://www.minpaku.ac.jp/　　みんぱくフェイスブック　http://www.facebook.com/MINPAKU.official
みんぱくツイッター　http://twitter.com/MINPAKUofficial　　電話でのお問い合わせ　06-6878-8560（本館 広報係）

みんぱくゼミナール

時間　13時30分～15時（13時開場）
会場　本館講堂
定員　450名（当日先着順）
参加費　無料（展示をご覧になる方は展示観覧券が必要です）

第446回　7月18日(土)
大陸中央の末端へ――パキスタンの山奥で言語を探す
講師　吉岡乾（本館 助教）

ウルタル峰とバルティット城砦

ヒトの移動やくらしの中心は平地です。生活世界の「端っこ」というのは何も、陸地の縁の海に面した部分ばかりではありません。山奥もまた、「端っこ」になります。そんな端っこの最たるひとつでもある〝世界の屋根〟と呼ばれる地域では、どういった人びとがどのような言葉を話しているのでしょうか。

みんぱくウィークエンド・サロン
研究者と話そう

時間　14時30分～15時30分
※申込不要、参加無料（要展示観覧券）
本館の研究者が来館された皆様の前に登場します！「研究について」「調査している地域（国）の最新情報」「展示資料について」など、話題や内容は実に多彩。

7月5日(日)　本館ナビひろば
シカチ・アリャンの岩面画の成立年代と日本の縄文時代
話者　佐々木史郎（本館 教授）
7月12日(日)　本館ナビひろば
インドの新しいファッション
話者　杉本良男（本館 教授）
7月19日(日)　本館ナビひろば
インドのお手伝いさん――女性家事労働を考える
話者　松尾瑞穂（本館 准教授）
7月26日(日)　本館ナビひろば
言語から歴史を読み解く――南アジアを例にして
話者　吉岡乾（本館 助教）

刊行物紹介

■ヌカ・K・ゴッツフレッセン 作・画、沢広あや 訳、岸上伸啓 監修
『極北の大地・グリーンランドの夜明け――THE FIRST STEPS』
清水弘文堂書房　3,000円（税抜）

グリーンランドに人類が初めて足を踏みいれた4500年ぐらい前の時代の生活を描き出したグラフィック・ノベル。本書は、デンマーク国立博物館の考古学者が情報を提供し、それをもとにイヌイットの漫画家ゴッツフレッセンが描いたもの。

■杉本良男 著
『スリランカで運命論者になる――仏教とカーストが生きる島』
臨川書店　2,000円（税抜）

仏教とカーストが生きる島スリランカでのさまざまな調査経験を通じて、次第に現地の社会文化に引き込まれて行った人類学者の軌跡を詳細にたどり、その後の南インドでの経験についても述べている。

■浜田明範 著
『薬剤と健康保険の人類学――ガーナ南部における生物医療をめぐって』
風響社　3,600円（税抜）

生物医療(病院で行われているタイプの医療)が先進国のようには普及していないと思われるアフリカにおいて、「意外にも」身近な存在となっている薬剤や健康保険。その実態を起点に、医療と人間・社会の関係を逆照射する野心的な論考。

友の会

国立民族学博物館友の会　電話 06-6877-8893（9時～17時、土日祝を除く）　FAX 06-6878-3716
http://www.senri-f.or.jp/　E-mail minpakutomo@senri-f.or.jp

友の会講演会（大阪）

時間　14時～16時
会場　本館第5セミナー室
※当日先着順、会員無料（会員証提示）、一般500円

第445回　8月1日(土)
インドを彩る日本のタイル――インド近代化遺産のもうひとつの物語
講師　豊山亜希（現代インド地域研究国立民族学博物館 拠点 拠点研究員）

日本でも最近耳にする文化遺産のあらたな概念「近代化遺産」。インドではいま、イギリスの植民地支配の記憶を伝える多様な「印洋」折衷建築の再評価が進んでいます。それら建築を彩るタイル自体、衛生観念の浸透とともに普及した近代化のシンボルです。植物文様やヒンドゥーの神がみを表した色彩豊かなタイルの多くが、じつは日本で製作されました。この小さな「文化遺産」を手がかりに、激動の近代史に隠された日本とインドの交流の足跡をたどります。

●講義と併せ、懇談会をおこないます。

第446回　9月5日(土)
日韓の汁文化と発酵食品
講師　福留奈美（お茶の水女子大学専門食育士）

●講義と併せ、発酵調味料等の味わい体験を含むワークショップをおこないます。

東京講演会

会場　JICA地球ひろば　セミナールーム600
定員　60名（要事前申込、会員無料・一般500円）

第113回　8月23日(日) 14時～16時
食の歳時記――ベトナム、黒タイの村から
講師　樫永真佐夫（本館 准教授）

山がちな西北ベトナムには、地形や高低に応じてさまざまな民族が住み分けて暮らしています。盆地で水田をつくっている黒タイは、モチ米が主食です。彼らの食卓は、季節の移り変わりに応じ、素材の特性を活かしたさまざまな旬の食材で豊かに彩られます。講演会では黒タイの食を歳時記風にとりあげ、そこからモノ、習慣、信仰、近隣の民族との関わりなど、彼らの生活の実相に迫ります。

●講義と併せ、懇談会をおこないます。